

1. 調査報告概要表

作成日 2008年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	1591600026
法人名	株式会社 てるてるぼうず
事業所名	グループホーム てるてる家族
所在地 (電話番号)	新潟県妙高市柳井田町4丁目14番1号 (電話) 025-575-1212
評価機関名	MMC総合コンサルティング 株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成20年12月20日

【情報提供票より】(20年12月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成19年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 9 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての		2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,100 円	その他の経費(月額)	0 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	揚石医院、桜井整形外科医院、わくい歯科クリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は妙高市郊外にあり、周辺地域にはスーパーやレストランなどがあり、一方で周辺に畑や田んぼが広がり、ホームの窓からは近くの山々が見えるとても閑静な環境にあります。ホームは3階建ての2階部分にあり、グループホームとしては非常に広いスペースが確保され明るい雰囲気のほか、職員と利用者は方言をまじえながら活き活きとしている姿が感じられました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の評価がはじめてです。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員で話し合い取り組まれたようです。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議には市の担当者、包括支援センターの職員、ご家族代表者、入居者、事業所の職員が参加し、事業所の現状の報告のうえ参加者から意見をいただき、サービスの向上に努めています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 事業所の入り口に第三者委員の掲示及び意見箱を設置し、意見や苦情を出せるようにしています。これまで、意見箱に投書がなかったので意見や苦情の対応はありませんが、意見や苦情が出された場合には対応するようにします。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のさいの神などの行事や保育園の七夕に参加したり、近隣の小学生や地域の子供たちが事業所に来ていただくなど、地元の人々との交流に努めています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症の基本的理念に加えて、職員全員で事業所独自の理念を作り上げ事業所の入り口に掲示しております。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に職員全員で理念を唱和し共有できるようにされています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	事業所開設時に社長が地域の方々に説明しました。また、事業所の入り口に理念を掲示しています。また、(株)てるてるぼうず発行の新聞は会社理念を掲載し配布しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のさいの神などの行事や保育園児と七夕などで交流しています。小学校の子供たちもお祭りの時には地域の子供達に事業所に来てもらい、地元の人々との交流に努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は今回が初めてなので改善計画はありません。自己評価は職員全員で話し合い取り組まれたようです。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市の担当者、包括支援センターの職員、ご家族代表者、入居者、事業所の職員が参加し、事業所の現状の報告のうえ参加者から意見をいただき、サービスの向上に努めています。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ市の担当者には連絡をとり、分からないところは確認をしています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の定例会でケース検討を行っています。また新聞・雑誌等で関連記事があれば職員に配布し注意を払っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行している「てるてる家族新聞」で職員の異動等に関しては報告し、家族が来訪した際には個々に合わせた状態報告を行っています。また金銭確認は定期的に金銭出納帳にて確認をしていただいております。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の入り口に第三者委員の掲示及び意見箱を設置し、意見や苦情を出せるようにしています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会での議題は職員が持ち寄るようにしており、管理者も含めて議題の検討をし運営者に伝えるようにしています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の他事業所との異動は極力抑え、もし異動があった場合も利用者に不安を与えないよう、できる限り顔見知りの職員を配置するなどの配慮がされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	入浴や苦情処理、感染対策などマニュアルは整備されておりますが、事業所の状況に合わせた見直しはなされていません。		事業所の状況に合わせた見直しを行い、活用されることを期待します。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所では法人の研修委員会等が企画した内部研修に参加しています。また外部の研修会にも情報を収集して積極的に参加しており、後日、同じ内容で内部に研修会を開催し報告伝達しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	妙高市の介護ネットワークに参加し情報交換をしています。また、妙高市の3つのグループホーム、長野県の2つのグループホームとは施設間で職員交流などもしています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人で年数回コミュニケーションを図る為、暑気払いや忘年会を開催しています。また運営者は毎週水曜日に利用者及び職員と食事を一緒にとり、相談があれば受けられるようにしています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にはまず利用者と家族に見学に来ていただき、管理者が説明しサービス利用を開始していただくようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑で取れる野菜等の手入れ、処理、調理、体験などを一緒に行い、ご利用者には人生の先輩として処理・調理方法を教えて頂いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月配布する「てるてる家族新聞」や電話などで情報を共有するよう心がけ、関係を断ち切ることなく本人を支えるよう努めています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から何気ない一言やふとした時にでてくる言葉に着目し、その言葉や思いをその方の主張としてとられるよう検討しています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にはご自宅に訪問し利用者と家族と面談し、今までの生活状況について情報を得ています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の考えや気持ちを日々の生活の中で聞き取ったり、担当者を中心に様々な視点から意見交換をし、その情報をもとに介護計画を作成しています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回必ず評価、見直しを行っています。また、状態の変化が生じたときは必要に応じて現状に即した新たな計画を検討し作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くにある同法人が運営する本館(デイサービス・ショートステイ)の事業所の行事等に積極的に参加しています。また、本館にある大きなお風呂に入り気分転換を図るようにしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの受診経過を把握し、今まで通りの受診または往診をして頂いています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所して看取りの指針を作成し、入居時に家族に終末期の対応について確認し、職員に家族の意向を伝えていきます。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	資料の保管はスタッフルームでしっかりと行われており、利用者への対応も一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような対応、言葉掛けを行っています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れ以外では特別なプログラムは用意せず、畑作業や散歩など個々の利用者に合わせた支援が行われています。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや盛り付けを一緒に行い、食事と同じものを一緒に同じテーブルで食べています。また、自家菜園でとれた旬の野菜をメニューに取り入れています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間を決めてトイレ誘導はしておらず、本人の仕草等で誘導していますがすでに排泄していることが多く、パターンがつかめていません。声掛け等で誘導していますが、拒否される方もおられ尿取りパットの使用量も減らせていません。		排泄のパターンをどのようにしてつかむか、尿取りパットの使用量をどのように減らすのかご検討を頂き改善されることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に決めず、利用者の要望を聞きながら対応されています。また本館にある大きなお風呂に入り気分転換を図るようにしています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、調理作業などその人の生活歴から得意なことや好きなことを知り、役割や楽しみごととして行えるように支援されています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節感を感じられるようドライブにでかけており、また一人で外出したい場合はできるだけ希望に添えるよう支援しています。 天気の良い日は、外でお茶を飲んだり畑仕事を手伝ってもらっています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしてはいけないということを理解されているようですが、本人の希望でベット柵を3点柵にしている方が1名います。		利用者の希望でしかたないところもあると思いますが、ベット柵を使用しない方法を検討し改善していただくことを期待します。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	今まで危険行為のあった薬品庫等は出入りに施錠していますが、日中は基本的に玄関の鍵はかけていません。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々ヒヤリハットを記録し、その都度改善策を検討し大きな事故につながらないようにされています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署が実施している救急法の研修会に職員全員が参加しています。また、救急法に関する書籍を職員がいつでも見られるように対応されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者を含め月に1回定期的に避難訓練を実施していますが、事業所内に非常用食品の準備がされておられません。		災害時を想定し、必要な量の非常用食品の準備をお願い致します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとに食事摂取量を、また必要に応じ水分摂取量を記入しています。また、月に一度栄養士の指導を受け改善につなげています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間全体は一般住宅と同じように木の質感があり、落ち着いた色調です。また、スペースが広くゆったりと居心地のいい雰囲気が流れていました。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一部の方は使い慣れた物を自宅より持ち込み、家族の写真や編み物などが置いてあり自宅に近い環境で居心地良い部屋になっています。		